

■効果の見える治水事業

徳島県 見堂谷 通常砂防事業

徳島県南部総合県民局 国土整備部 副部長 東村 正行



○事業概要

那賀川水系坂州木頭川流域の見堂谷地区は、徳島県の山間部、那賀郡那賀町坂州に位置する砂防指定地であり、土石流が発生する危険性が高い地区です。当地区内には、人家37戸をはじめ、地域防災計画で避難所に位置づけられた集会所や防災ヘリポートへ連絡する町道など重要な施設がありますが、かねてより当地区の上流部では、山腹崩壊等により荒廃が進行しており、出水時には、土石流等により、下流域の人家等に甚大な被害を及ぼす恐れがありました。

このため、平成10年度より通常砂防事業による整備に着手し、これまでに、堰堤2基を完成させ、さらに、現在、最上流部のたまんきら谷で来年度の完成を目標に第3号堰堤を施工しており、この完成により、地区の安全性を格段に向上させることができます。

昨年は、台風12号により紀伊半島地方で大規模な土砂災害が発生しましたが、平成16年の台風10号の際には那賀町で日降水量1,317mmを記録し、当地区及び周辺地区では、土砂災害が多発し、甚大な被害が生じました。最近の頻発するゲリラ豪雨や大型化する台風、さらには大規模地震の発生に備え、これまで以上にハード・ソフト一体となった土砂災害対策の取り組みを推進していく必要があると考えております。

○主要施設

砂防堰堤 3基 第1号堰堤 (H=12.0m L=30.0m) H14年度 完成
第2号堰堤 (H=12.5m L=55.7m) H21年度 完成
第3号堰堤 (H=14.0m L=56.0m) 施工中

○事業期間

平成10年度～平成24年度(予定)

「那賀川水系坂州木頭川支見堂谷 土石流危険渓流Ⅰ」



大規模地震と土砂災害(山津波)の対応

那賀町長 さかくちひろふみ 坂口博文



那賀町は、徳島県の東南部に位置し、地域の北西部に四国山地、南部には海部山脈などを配しており標高1,000メートル級の山々に囲まれ、地域の9割以上が森林の中山間地域です。

地域内には那賀川及び坂州木頭川が流れ、両河川は旧上那賀町内で合流し地域のほぼ中央を西から東に貫流しています。面積は694.86平方キロメートルで、徳島県総面積の約17パーセントを占めています。このような広大な面積と那賀川を挟んで山麓に点在する集落は東西に約60キロメートルに及び、脆弱な地質と急峻な地形が土砂災害の危険性を高めています。

今後、何時起きても不思議でない状況下にある大規模地震を想定するとき、深層崩壊を含めた大規模な土砂災害を想定しておかなければならず、河道閉塞、幹線道路の通行不能箇所の対応、生活物資の供給、負傷者・病人を搬送する緊急輸送路や通信手段の確保等について、海岸沿いの津波対策とは違った視点での想定が必要です。特に、平成16年の大規模土砂災害の未だ完全復旧していない箇所を含め、対策工事を早急に完成しておかなければ安心できない箇所も多くなります。



さらに、近年地球温暖化傾向から局地的な豪雨が頻繁に発生する気象条件下にあることから、豪雨と重なった大規模地震発生を想定するとき、長安ロダムの早期改良を願わずにはいられない状況にあります。

那賀町では、合併時から進めております地域自治会単位を中心とした、自主防災組織での活動を通じ、本町に合った防災意識を住民に自覚していただくこととしており、それぞれの地域で安全な場所・安全な避難方法を常に意識しておくことが重要であります。その上に災害予防を含めた対策工事が、被害を最小限に食い止めることに繋がることから、今後ともハード整備と連携しながら町民がより安心して生活出来る環境づくりに努めていきたいと考えております。

